

岡山県における公立中学校夜間学級に関する調査研究報告書（概要）

令和3年3月

1 調査研究の目的

- ・平成28年度より「岡山県中学校夜間学級調査研究委員会」（以下「調査研究委員会」という）を継続して設置。市町村教育委員会等と連携しながら、県としての考え方を明確にするために調査研究を実施。
- ・平成28年度調査等をまとめた報告書（平成30年3月）では、「学び直しのニーズは一定数あるが、週5日毎日夕方から学校に通い、義務教育段階の内容についての授業を受けるという中学校夜間学級での学びを希望する人はわずかであり、現時点で、直ちに中学校夜間学級を設置する状況にないと考えられる」、「今後も学び直しへのニーズは変化することも考えられることから、一定の期間の後にニーズ調査を行うこと」とされた。
- ・平成28年度調査から一定の期間が経過していることから、令和元年度において、本県における公立中学校夜間学級での学びのニーズを調査し、改めて岡山県としての公立中学校夜間学級設置に関する考え方を検討。

2 調査研究の内容

(1) 県内全域のニーズの状況の把握について

- ・調査研究委員会において、岡山市を除く県内26市町村を範囲とした調査を実施（以下、「県実施調査」という）。
- ・岡山市においては、岡山市を範囲とした調査を別途実施（以下、「岡山市実施調査」という）。
- ・県実施調査の結果に対応する岡山市実施調査の結果を加味し、県内全域の公立中学校夜間学級での学びのニーズの状況について検討。

(2) 県実施調査の方法

① アンケート調査の概要

- ・令和元年9月2日～10月31日に、調査用紙約24,000枚を配付。
- ・アンケート用紙等を、県内の全図書館・全公民館・市町村教育委員会・ハローワーク等に設置。不登校生徒等を支援しているNPO法人や、県学び直し推進事業の県内4教室にも調査への協力を依頼。（日本語版、英語版、中国語版を作成。）
- ・ポスター、県・県教委のホームページ、SNS、新聞等により周知。

② ヒアリング調査の概要

- ・アンケート回答者または県学び直し推進事業受講者で合意を得られた方19人が対象。
- ・令和元年9月～令和3年1月に電話・面接により実施。

(3) 県実施調査の結果

① アンケート調査の結果の概要

ア	調査用紙の回収数	347人
イ	公立中学校夜間学級で、自分が「学びたい」と回答した方	84人
ウ	自分が学びたい理由	
	・ 中学校を卒業していないから	4人
	・ 卒業したが、学び直したい	52人
	・ 外国人で中学校の知識や技能を学びたい	19人
エ	自分が学びたいと回答した方の居住地	
	・ 県南の市町村	62人
	・ 県北の市町村	17人
	・ 居住地の記載なし	5人

② ヒアリング調査の結果の概要

- ・ 調査対象 19 人（日本国籍 14 人、外国籍 5 人）。
- ・ 公立中学校夜間学級の入学対象になりうると考えられる者 6 人、判断がつかない者 4 人、公立中学校夜間学級の入学対象にならないと考えられる者 9 人。

(4) 県内全域のニーズの状況について考察^{※1}

① 公立中学校夜間学級の学びのニーズについて全体的な考察

- ・ 公立中学校夜間学級への県民の認知は広がっている。
- ・ 公立中学校夜間学級での学びのニーズは、「幅広く捉えたとき一定数ある^{※2}」、と考えることが妥当。

② 公立中学校夜間学級で学びたい理由からの考察

- ・ 義務教育未修了者で公立中学校夜間学級での学びを希望する方 10 人（岡山市実施調査を含む）。
- ・ 不登校など様々な事情から実質的に十分な教育を受けられないまま学校の配慮等により卒業した者について、公立中学校夜間学級での学びのニーズは、幅広く捉えたとき一定数ある、と考えることが妥当。
- ・ 本国において義務教育を修了していない外国籍の方について、公立中学校夜間学級での学びのニーズは、幅広く捉えたとき一定数ある、と考えることが妥当。

③ その他アンケートやヒアリング結果からの考察

- ・ 「自分が学びたい」と考えている方は県南部の都市部を中心に広域におり、公立中学校夜間学級の設置場所を検討するに当たっては、ニーズの多い地域であることに加えて、交通の利便性も考慮が必要。
- ・ 支援者が把握している公立中学校夜間学級での学びが適する方が存在する可能性にも留意が必要。
- ・ 外国籍の方の公立中学校夜間学級での学びの潜在的ニーズの掘り起こしが重要。
- ・ 公立中学校夜間学級に多様な役割が期待されている。
- ・ 公立中学校夜間学級とは異なる、義務教育段階の内容の学び直しができる場の充実について今後とも検討が必要。

※1 県実施調査の結果に、対応する岡山市実施調査の結果を加味し、県内全域の状況の考察を行った。なお、岡山市実施調査の数値は、〈参考〉として本編に記載。

3 調査研究のまとめ

(1) 考察のまとめ

- ・公立中学校夜間学級での学びのニーズは、「幅広く捉えたとき一定数ある^{※2}」、と考えることが妥当。
- ・一定数には、義務教育未修了者で公立中学校夜間学級の学びを希望する方 10 人に加え、不登校など様々な事情から実質的に十分な教育を受けられないまま学校の配慮等により卒業した者や、本国において義務教育を修了していない外国籍の方で、公立中学校夜間学級での学びを希望する方も含まれている。
- ・ニーズは県南の都市部を中心に広域。交通の利便性も考慮して検討が必要。
- ・外国籍の方への更なる周知等の検討が必要。
- ・公立中学校夜間学級とは異なる、義務教育段階の内容の学び直しができる場の充実について今後とも検討が必要。

(2) 調査研究委員会としての提案

- ・公立中学校夜間学級での学びのニーズは、「幅広く捉えたとき一定数ある」、としたことなどを踏まえ、今後、県教育委員会は公立中学校夜間学級の設置に向け、主体的に取り組むとともに、広域行政体として、市町村教育委員会においても前向きに検討が行われるよう働きかけ、市町村間の調整を図ることが必要。
- ・岡山市においては、令和 2 年度に学び直しの場のための夜間教室を開設して、その必要性についても検討する等、政令市として独自に取組を推進していることを踏まえ、県教育委員会は、岡山市教育委員会と引き続き情報共有をするなど、十分連携していくこと。
- ・今般の新型コロナウイルス感染症の影響により、学び直し教室等に参加できないことで、十分なヒアリング調査に至っていなかった可能性があることを踏まえ、設置に向けた検討と並行して、実際に入学可能な方の把握を継続して行うことが必要。

※2 アンケート調査で「公立中学校夜間学級で、自分が学びたい」と回答した方について、学び直しの希望の態様は個人により多様で複雑であり、回答者の人数が公立中学校夜間学級での学びのニーズを、直接表す数値と捉えることには慎重であるべき。また、個々の状況について把握できない中で、恣意的に除外することは適切とはいえない。そのため、「幅広く捉えたとき一定数ある」と考えることが妥当と判断。

岡山県における公立中学校夜間学級に関する
調査研究報告書

令和3年3月

岡山県中学校夜間学級調査研究委員会

目次

1	調査研究の目的	P 1
2	調査研究の内容	
	(1) 県内全域のニーズの状況の把握について	P 3
	(2) 県実施調査の方法	P 3
	① アンケート調査の概要	
	② ヒアリング調査の概要	
	<参考> 岡山市実施調査の方法	
	(3) 県実施調査の結果	P 5
	① アンケート調査の結果の概要	
	ア 調査用紙の回収数	
	イ 公立中学校夜間学級で、自分が学びたい	
	ウ 自分が学びたい理由	
	エ 自分が学びたいと回答した方の居住地	
	オ 公立中学校夜間学級のことを知らせたい人がいるか	
	カ 公立中学校夜間学級に期待すること	
	<参考> 対応する岡山市実施調査のアンケート調査の結果	
	② ヒアリング調査の結果の概要	
	(4) 県内全域のニーズの状況について考察	P 9
	① 公立中学校夜間学級の学びのニーズについて、全体的な考察	
	② 公立中学校夜間学級で学びたい理由からの考察	
	③ その他アンケートやヒアリング結果からの考察	
3	調査研究のまとめ	P 17
	(1) 考察のまとめ	
	(2) 調査研究委員会としての提案	
	<資料>	P 19
	1 調査研究委員会委員	
	2 調査研究委員会開催状況等	
	3 岡山県における公立中学校夜間学級に関するニーズ調査結果	
	・アンケート調査の結果	
	・アンケート調査用紙（日本語版、英語版、中国語版）及び返信用封筒	
	・ポスター	
	4 既設公立夜間中学 生徒数一覧	
	5 県外視察について	

1 調査研究の目的

国の動向

平成28年12月に公布された「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」第14条においては、全ての都道府県及び市町村に対して、夜間中学等の設置を含む就学機会の提供その他の必要な措置を講ずることが義務づけられた。また、法第7条に基づき策定された「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する基本指針」（平成29年3月31日 以下、「国の『基本指針』」）において、全ての都道府県に少なくとも一つは夜間中学等が設置されることを目指し、文部科学省として、都道府県立によるものも含め、夜間中学等の設置を促すとされた。さらに、令和元年6月に開かれた文部科学省の有識者会議では、全ての都道府県に加え、全政令市にも設置を促すとされた。平成29年度に8都府県に31校が設置されていた公立中学校夜間学級は、令和2年4月に10都府県に34校が設置されている。

本県の状況と調査研究の目的

岡山県では市町村教育委員会等と連携しながら、県内の実態把握や設置に関する調査等を実施することを目的に、平成28年度より「岡山県中学校夜間学級調査研究委員会」（以下「調査研究委員会」）を設置し、市町村等との協議等を通して、中学校夜間学級の設置に当たっての需要把握や課題、その解消策等について研究し、中学校夜間学級設置に関する県としての考え方を明確にするために調査研究を続けてきた。

平成28年度に実施したニーズ調査等をまとめた「岡山県における中学校夜間学級に関する調査研究報告書（平成30年3月、岡山県中学校夜間学級調査研究委員会、<https://www.pref.okayama.jp/page/552107.html>）では、中学校夜間学級の教育内容や対象者についての説明と、中学校夜間学級での学び直しの希望について電話相談を受けることを、公民館等へのチラシの設置や県広報紙やホームページへの掲載を通じて周知したところ、23件の電話相談があり、これらの内容を詳細に聞き取った結果、中学校夜間学級に通学し義務教育段階の内容を学習したいというニーズは5件であったことから、「学び直しのニーズは一定数あるが、週5日毎日夕方から学校に通い、義務教育段階の内容についての授業を受けるという中学校夜間学級での学びを希望する人はわずかであり、現時点で、直ちに中学校夜間学級を設置する状況にないと考えられる」とされた。一方、「今後も学び直しへのニーズは変化することも考えられることから、一定の期間の後にニーズ調査を行うこと」も求められた。

その後、調査研究委員会では、「学び直し」への支援状況の把握及び中学校夜間学級の設置に関する調査研究の進め方を協議し、令和元年度には、県教育委員会「公民館等を活用した夜間学び直し推進事業」として、県（学びing パル教室）、及び倉敷（まなびば ippo）、津山（まなびカフェ）備前（備前で学び直し）の3市で公民館講座等における学び直し※1の場を提供するに至っている（以下、「県学び直し推進事業」）。※2

このような経緯や背景を踏まえ、平成28年度調査から一定の期間が経過していることから、令和元年度において、本県における公立中学校夜間学級での学び※3のニーズを調査し、改めて岡山県としての公立中学校夜間学級設置に関する考え方を検討することとした。

※1 学び直し：本報告書においては、就学年齢を過ぎた者が、義務教育段階の内容を学習することを「学び直し」としている。

※2 岡山市教育委員会においても、令和2年度より、市内2カ所（トラングル一宮、あおぞら操山）で「夜間教室」を開催し、学び直しの場を提供している。

※3 公立中学校夜間学級での学び：本調査では、週5日毎日夕方から学校に通い、義務教育段階の内容についての授業を受けるという学びを「公立中学校夜間学級での学び」としている。

2 調査研究の内容

(1) 県内全域のニーズの状況の把握について

調査研究委員会（事務局：県教育庁義務教育課）において、岡山市を除く県内26市町村を範囲とした調査を実施した（以下、「県実施調査」）。調査方法の概要は（2）のとおりであるが、公立中学校夜間学級での学びのニーズを把握するためにアンケート調査を実施し、さらにニーズの具体的な内容をより深く把握するためにヒアリング調査を実施している。

なお、岡山市においては、岡山市を範囲とした調査を、岡山市教育委員会が一般社団法人岡山に夜間中学校を作る会との協働により、別途実施（以下、「岡山市実施調査」）している。

県内全域の状況の把握に当たっては、県実施調査の結果に対応する岡山市実施調査の結果を加味し、県内全域の公立中学校夜間学級での学びのニーズの状況について検討を行うこととした。

(2) 県実施調査の方法

※参考として、対応する岡山市実施調査の方法の概要をP4に示している。

① アンケート調査の概要

- ・調査範囲 岡山市以外の26市町村
- ・調査期間 令和元年9月2日～10月31日
- ・調査用紙配付数 約24,000枚
- ・調査方法
 - ・選択式回答を中心としたアンケート用紙とその回収用封筒を、県内の全図書館・全公民館・市町村教育委員会に加え、ハローワーク等に設置。
 - ・不登校生徒等を支援しているNPO法人や、県学び直し推進事業の県内4教室にも調査への協力を依頼。
 - ・周知のためのポスターを作成・掲示するとともに、岡山県及び岡山県教育委員会のホームページ、SNSや新聞等のメディアへの掲載により周知。
 - ・アンケートは、日本語版だけでなく英語版・中国語版も作成し、多言語へ対応。
- ・調査用紙の内容 巻末資料P22を参照。

②ヒアリング調査の概要

- ・調査対象 アンケート調査で電話番号の記載のあった方で合意を得られた方及び県学び直し推進事業の受講者のうち合意を得られた方。
- ・調査人数 19人
- ・調査期間 令和元年9月～令和3年1月 ※
- ・調査方法 電話または面接
- ・調査内容 居住地、性別、年齢、これまでの学びの経歴、中学校夜間学級に期待することなど、アンケート調査に関わる詳細。

※新型コロナウイルス感染症予防の影響で、11人については令和元年9月から令和2年3月末までに実施。3人については令和2年8月に実施。5人については令和2年12月から令和3年1月に実施。

<参考>岡山市実施調査の方法

※「一平成31年度岡山市市民協働推進モデル事業―「学ぶことは生きること」義務教育学び直しサポート事業 夜間中学に関するニーズ調査報告書（調査主体：一般社団法人岡山に夜間中学をつくる会、協働課：岡山市教育委員会事務局学校教育部指導課・生涯学習部生涯学習課 以下、「岡山市実施調査報告書」）から関係箇所を参照
(<http://www.okayama-tbox.jp/kyoudou/pages/m3102>)

①アンケート調査の概要

- ・調査範囲 岡山市
- ・調査期間 令和元年6月8日～8月31日
- ・調査用紙配付数 約14,079枚
- ・調査方法 「岡山市実施調査報告書」P4参照。
- ・調査用紙の内容 「岡山市実施調査報告書」P5～11、28～31参照。

②ヒアリング調査の概要

- ・調査対象 アンケート調査のうち合意を得られた人
- ・調査人数 51人 内訳 岡山自主夜間中学校通学者 41人
アンケート調査からの希望者 10人
- ・調査期間 令和元年7月13日～10月31日
- ・調査方法 約30分間の対面もしくは電話
- ・調査内容 「岡山市実施調査報告書」P13、32～35を参照。

(3) 県実施調査の結果

① アンケート調査の結果の概要

詳細については、巻末資料P 22を参照されたい。

※参考として、対応する岡山市実施調査の報告書の結果をP6～7に示している。

ア 調査用紙の回収数	<u>347人</u> (うち岡山市在住者5人)
イ 公立中学校夜間学級で、自分が学びたい 質問1(1)「あなたは公立中学校夜間学級で学んでみたいと思いますか」 1 「学びたい」と回答した方	<u>84人</u> (うち岡山市在住者5人)
ウ 自分が学びたい理由 質問1(2)「…なぜ学びたいのか、理由を教えてください」 1 「中学校を卒業していないから」と回答した方 2 「卒業したが、学び直したい」と回答した方 3 「外国人で中学校の知識や技能を学びたい」と回答した方	<u>4人</u> (うち岡山市在住者2人) <u>52人</u> (うち岡山市在住者2人) <u>19人</u>
エ 自分が学びたいと回答した方の居住地 質問1(1)で「1 学びたい」と回答した方84人について、 質問1(3)②「お住まいの市町村」 ・ 県南の市町村の回答 ・ 県北の市町村の回答 ・ 居住地の記載なし	<u>62人</u> (うち岡山市在住者5人) <u>17人</u> <u>5人</u>
オ 公立中学校夜間学級のことを知らせたい人がいるか 質問2(1)「公立中学校夜間学級のことを知らせたいと思う人があなたのまわりにいますか」 1 「身近にいる」と回答した方 2 「思いつく人がいる／場所(団体、職場など)がある」と回答した方	<u>38人</u> (うち岡山市在住者2人) <u>23人</u>

カ 公立中学校夜間学級に期待すること

質問3 「あなたが公立中学校夜間学級に期待することは何ですか。」(複数回答可)

- | | |
|----------------------|-------------|
| 1 「高校入学資格の取得」と回答した方 | <u>147人</u> |
| (うち岡山市在住者1人) | |
| 2 「中学校教育の修了」と回答した方 | <u>131人</u> |
| (うち岡山市在住者2人) | |
| 3 「中学校程度の学力習得」と回答した方 | <u>211人</u> |
| (うち岡山市在住者3人) | |
| 4 「読み書きの習得」と回答した方 | <u>143人</u> |
| (うち岡山市在住者5人) | |
| 5 「学校生活の体験」と回答した方 | <u>105人</u> |
| (うち岡山市在住者2人) | |
| 6 「就労・生活のため」と回答した方 | <u>156人</u> |
| (うち岡山市在住者2人) | |
| 7 「その他」と回答した方 | <u>27人</u> |

※回答1は、高校への入学を目指し中学校を卒業したいという期待、回答2は、中学校を卒業したいという期待、回答3は、中学校は卒業しているが学習内容を学び直したいという期待を把握することを想定している。

<参考> 対応する岡山市実施調査のアンケート調査の結果

ア 調査用紙の回収数

岡山市実施調査報告書 P 4

○回答数 ①アンケート調査

810通

イ 公立中学校夜間学級で、自分が学びたい

岡山市実施調査報告書 P 5

質問1 「…あなたは夜間中学で学んでみたいと思いますか」(複数回答可)

3 「自分が学んでみたい」と回答した方

143人

ウ 自分が学びたい理由

岡山市実施調査報告書 P 5

質問1で「自分が学んでみたい」と答えた人の質問2「学びたい理由」(複数回答可)

1 「中学校を卒業していないから」と回答した方

6人

2 「卒業したが、学び直したい…」と回答した方

113人

3 「外国人で、知識や技能を学びたい…」と回答した方

18人

エ 自分が学びたいと回答した方の居住地

岡山市実施調査報告書 P 7

質問 1 で「自分が学んでみたい」と答えた人の質問 4 の回答 (複数回答可)

○お住まいについて

「岡山市」と回答した方	<u>88人</u>
「岡山市以外の岡山县内」と回答した方	<u>16人</u>
「県外」と回答した方	<u>1人</u>
「無回答」	<u>40人</u>

オ 公立中学校夜間学級のことを知らせたい人がいるか

岡山市実施調査報告書 P 5

質問 1 「夜間中学のことを知らせたいと思う人があなたのまわりにはいますか。…」 (複数回答可)

1 「身近にいる」と回答した方	<u>103人</u>
2 「思いつく人がいる/場所 (団体、職場など) がある」と回答した方	<u>100人</u>

カ 公立中学校夜間学級に期待すること

岡山市実施調査報告書 P 8

質問 5 「あなたが、夜間中学に期待することは何ですか。 (複数回答可)」

1 「高校入学資格の取得」と回答した方	<u>189人</u>
2 「中学校教育の修了」と回答した方	<u>215人</u>
3 「中学校程度の学力習得」と回答した方	<u>305人</u>
4 「読み書きの習得」と回答した方	<u>246人</u>
5 「学校生活を経験したい」と回答した方	<u>153人</u>
6 「就労・生活のために」と回答した方	<u>306人</u>
7 「その他」と回答した方	<u>57人</u>

②ヒアリング調査の結果の概要

※岡山市実施調査の結果は、岡山市実施調査報告書 P13 を参照されたい。

□ 調査対象 19人 ※1（日本国籍 14人、外国籍 5人）

① 公立中学校夜間学級の入学対象になりう ると考えられる者 ※2	6人	・居住地 岡山市 1人 倉敷市 4人 津山市 1人 ・うち、外国籍1人
② 判断がつかない者 ※3	4人	・居住地 倉敷市 2人 津山市 1人 矢掛町 1人 ・うち、外国籍1人
③ 公立中学校夜間学級の入学対象にならな いと考えられる者 ・高校卒業以上 ・日本語学習のみを希望	9人	・居住地 岡山市 2人 倉敷市 2人 津山市 4人 真庭市 1人 ・うち、外国籍3人

※1 19人のうち、5人（うち1人は岡山市在住）については、県実施調査のアンケート調査の回答者のうち、連絡先の記載のあった方で、ヒアリングをすることに合意を得られた方であり、電話によりヒアリングを実施。

また、14人（うち2人は岡山市在住）については、「県学び直し推進事業」における、県生涯学習センター「学びing パル教室」、倉敷「まなびば ippo」、津山「まなびカフェ」、備前「備前で学び直し」の参加者で、期間内にヒアリングが可能で合意の得られた方について面談によりヒアリングを実施。
なお、岡山市を範囲として、別途「岡山市実施調査」が行われていることに留意が必要。

※2 義務教育未修了者1人、本国で義務教育を修了していない外国籍の者1人、入学希望既卒者4人。なお、6人とも、（設置場所の制約があるが）登校する意志がある。

※3 家族が回答しているため、本人の意思の確認ができない者1人。
十分情報が得られず判断できない者3人。

(4) 県内全域のニーズの状況について考察

県内全域の状況についての考察に当たっては、(3)に掲載した県実施調査の結果に、対応する岡山市実施調査の結果を加味※し、次のとおり①～③に分けて整理して示す。

①公立中学校夜間学級の学びのニーズについて、全体的な考察

公立中学校夜間学級への県民の認知は広がっている

- ・今回のアンケート調査の回収数は、県内全域では、1,157人である。
(県実施調査：P5(3)①ア、岡山市実施調査：P6ア 参照)
- ・前回調査(平成28年度)では、岡山市を含む県内に約27,000枚のチラシを配付し、それに対し23件の電話相談があった。
- ・前回と方法は異なるものの、今回のアンケート調査では、県実施調査と岡山市実施調査を合わせて約38,000枚のアンケート用紙を配付し、回答人数が1,157人に増加している。回答人数の増加から、公立中学校夜間学級への県民の関心が高まり、認知も広がっていると考えられる。また、認知の広がりに伴い、公立中学校夜間学級での学びの潜在的ニーズの掘り起こしに結びついていることも推定される。

※県実施調査と岡山市実施調査の両方に回答している方がいる可能性があることに留意が必要である。

公立中学校夜間学級での学びのニーズは、幅広く捉えたとき一定数ある、と考えることが妥当

- ・今回のアンケート調査で、「公立中学校夜間学級で、自分が学びたい」と回答した方は、県内全域では、227人である。
(県実施調査：P5(3)①イ、岡山市実施調査：P6イ 参照)
- ・この数値は、公立中学校夜間学級に対する県民の認知が広がり、潜在的ニーズの掘り起こしに結びついていることの表れと考えられる。
- ・但し、ヒアリング調査やアンケート調査の記述回答の内容(P23 質問1(2)「その他」等 参照)からは、学び直しの希望の態様は、週5日毎日夕方から学校に通い、義務教育段階の内容について授業を受けるという公立中学校夜間学級での学びを中心としつつ、例えば、月1、2回程度、義務教育段階の内容の一部を学習する生涯学習の視点からの学び直しの希望や、外国籍の方における日本語学習への期待なども含まれており、個人により多様で複雑である。
- ・したがって、227人という数値が、公立中学校夜間学級での学びのニーズを、直接表す数値と捉えることには慎重であるべきである。

また、227人の回答者の個々の状況について把握できない中で、公立中学校夜間学級での学びに該当しないという理由で恣意的に除外することは適切とはいえない。

- これらのことから、県内において、週5日毎日夕方から学校に通い、義務教育段階の内容について学習したいという公立中学校夜間学級での学びのニーズは、幅広く捉えたとき一定数（227人）ある、と考えることが妥当である。

②公立中学校夜間学級で学びたい理由からの考察

- ・今回の調査では、公立中学校夜間学級で、「自分が学びたい」と回答した方 227人について、その理由を「中学校を卒業していないから」、「卒業したが、学び直したい」、「外国人で中学校の知識や技能を学びたい」の項目で調査している。

(県実施調査：P5(3)①ウ、岡山市実施調査：P6ウ 参照)

- ・これらの理由は、国の「基本指針」において、夜間中学等で受け入れ、教育機会の提供を行うことが期待されている方として示された、「戦後の混乱期の中で様々な事情により義務教育未修了のまま学齢を超過した者（義務教育未修了者）」、「本国において義務教育を修了していない外国籍の者」、「不登校など様々な事情から実質的に十分な教育を受けられないまま学校の配慮等により卒業した者」に対応している（下表参照）。
- ・幅広く捉えたとき一定数（227人）ある、と考えられる公立中学校夜間学級での学びのニーズの実態をより詳しく把握するために、以下では、これら3つの視点から考察する。

自分が学びたい理由	国の「基本指針」P7(2)より抜粋
中学校を卒業していないから	夜間中学等については、戦後の混乱期の中で様々な事情により <u>義務教育未修了のまま学齢を超過した者</u> に対して教育の機会を提供してきた。現在、このような <u>義務教育未修了者</u> に加えて、 <u>本国において義務教育を修了していない外国籍の者</u> 、また、 <u>不登校など様々な事情から実質的に十分な教育を受けられないまま学校の配慮等により卒業した者</u> で、中学校等で学び直すことを希望する者を受け入れ、教育機会の提供を行うことが期待されている。
卒業したが、学び直したい	
外国人で中学校の知識や技能を学びたい	

義務教育未修了者で公立中学校夜間学級での学びを希望する方10人

- ・今回のアンケート調査で、「中学校を卒業していないから」と回答した方は、県内全域で10人である。

(県実施調査：P5(3)①ウ1、岡山市実施調査：P6ウ1 参照)

- ・この10人は、中学校を卒業していないことから、様々な事情により義務教育を修了できないまま学齢を超過した方（義務教育未修了者）であり、公立中学校夜間学級での学びを希望する方である。
- ・なお、県実施調査では、当該者1名からヒアリングを実施している。
(P8 参照)

不登校など様々な事情から実質的に十分な教育を受けられないまま学校の配慮等により卒業した者について、公立中学校夜間学級での学びのニーズは、幅広く捉えたとき一定数ある、と考えることが妥当

- ・今回のアンケート調査で、「卒業したが、学び直したい」と回答した方は、県内全域で165人である。
(県実施調査：P5(3)①ウ2、岡山市実施調査：P6ウ2 参照)
- ・この165人の中に、公立中学校夜間学級での学びが適する方、すなわち、国の「基本指針」で示された「不登校など様々な事情から実質的に十分な教育を受けられないまま学校の配慮等により卒業した者で、中学校等で学び直すことを希望する者」、いわゆる「入学希望既卒者」が、一定数含まれていると考えられる。
- ・但し、ヒアリング調査やアンケート調査の記述回答の内容を勘案すると、165人の中には、例えば、高校や大学を卒業した方や、月1、2回程度義務教育段階の内容の一部を学習するような生涯学習の視点からの学び直しを希望する方も一定数含まれており、これらの方々の学びの経歴や将来の自己実現に向けた状況は多様で複雑である。
- ・したがって、165人という数値が、不登校など様々な事情から実質的に十分な教育を受けられないまま学校の配慮等により卒業した者について、公立中学校夜間学級での学びのニーズを、直接表す数値と捉えることには慎重であるべきである。
また、多様で複雑な個々の状況について把握できない中で、公立中学校夜間学級での学びに該当しないという理由で恣意的に除外することは適切とはいえない。
- ・これらのことから、不登校など様々な事情から実質的に十分な教育受けられないまま学校の配慮等により卒業した者について、公立中学校夜間学級での学びのニーズは、幅広く捉えたとき一定数(165人)ある、と考えることが妥当である。
- ・なお、県実施調査では、当該者4名からヒアリングを実施している。
(P8 参照)

本国において義務教育を修了していない外国籍の方について、公立中学校夜間学級での学びのニーズは、幅広く捉えたとき一定数ある、と考えることが妥当

- ・今回のアンケート調査で、「外国人で中学校の知識や技能を学びたい」と回答した方は、県内全域で37人である。
(県実施調査：P5(3)①ウ3、岡山市実施調査：P6ウ3 参照)
- ・この37人の中に、公立中学校夜間学級での学びが適する方、すなわち、国の「基本指針」で示された「本国において義務教育を修了していない外

国籍の者」で公立中学校夜間学級での学びを希望する方が、一定数含まれていると考えられる。

- ・但し、ヒアリング調査やアンケート調査の記述回答の内容等を勘案すると、37人の中には、本国において義務教育を修了している方、日本語教室で行われているような日本語学習への期待を持っている方、月1、2回程度、義務教育段階の内容の一部を学習するような学び直しを希望する方が、一定数含まれており、外国籍の方について、在留資格も含めた当事者の経歴や生活状況等は多様で複雑である。
- ・したがって、37人という数値が、外国籍の方について、公立中学校夜間学級での学びのニーズを、直接表す数値と捉えることには慎重であるべきである。
また、多様で複雑な個々の状況について把握できない中で、公立中学校夜間学級での学びに該当しないという理由で恣意的に除外することは適切とはいえない。
- ・これらのことから、外国籍の方について、公立中学校夜間学級での学びのニーズは、幅広く捉えたとき一定数(37人)ある、と考えることが妥当である。
- ・なお、県実施調査では、当該者1名からヒアリングを実施している。
(P8 参照)

③その他アンケートやヒアリング結果からの考察

「自分が学びたい」と考えている方は県南部の都市部を中心に広域におり、公立中学校夜間学級の設置場所を検討するに当たっては、ニーズの多い地域であることに加えて、交通の利便性も考慮が必要

- ・今回のアンケート調査によると、「自分が学びたい」と回答した方について、居住する市町村は、県実施調査（P 5（3）①エ 参照）では、県南 62 人、県北 17 人である。なお、対応する岡山市実施調査（P 7エ 参照）では、岡山市 88 人、岡山市以外の県内 16 人であることを考慮すると、「自分が学びたい」と考えている方は県南部の都市部を中心に広域にいるといえる。
- ・公立中学校夜間学級の設置場所を検討するに当たっては、ニーズの多い地域であることに加えて、交通の利便性も考慮して、今後検討が行われる必要がある。

支援者が把握している公立中学校夜間学級での学びが適する方が存在する可能性にも留意が必要

- ・今回のアンケート調査で、家族や友人などの当事者の周りの方やNPO法人などの支援者を想定して、公立中学校夜間学級のことを知らせたいと思う方があなたのまわりにいるかを尋ねたところ、「身近にいる」、「思いつく人がいる／場所（団体、職場など）がある」と回答した方は、県内全域では、それぞれ 141 人、123 人である。
（県実施調査：P 5（3）①オ、岡山市実施調査：P 7オ 参照）
- ・この中に、公立中学校夜間学級での学びが適する方が一定数含まれている可能性がある。
- ・但し、同一の当事者に対して複数の周りの方や支援者が回答している可能性があること、本人の意思と周りの方や支援者の受け止め方の間にズレがある可能性があること、「自分が学びたい」と回答した当事者本人との重複の可能性があり、141 人や 123 人を公立中学校夜間学級での学びのニーズを直接表す数値として扱うことは適切とはいえない。
- ・これらのことから、「一定数（227 人）」の他にも、明確に把握することは困難であるが、支援者が把握している公立中学校夜間学級での学びが適する方が存在する可能性にも留意が必要である。

外国籍の方の公立中学校夜間学級での学びの潜在的ニーズの掘り起こしが重要

- ・今回のアンケート調査では、日本語版に加え、英語版や中国語版等のアンも作成・配付され、外国籍の方への周知の面で一定の取組が見られた。
- ・岡山県内の在留外国人数は、令和元年末現在 31,569 人で、前年末に

比べ3, 411人増加し、過去最高を更新している。

- ・例えば、外国籍の方を多く雇用している企業と協力するなど、今後の協議の中で、外国籍の方へ更なる周知等を検討する必要がある。そういった取組の結果として、外国籍の方のうち公立中学校夜間学級での学びの潜在的ニーズの掘り起こしに結びつけることが重要である。

公立中学校夜間学級に期待されている多様な役割

- ・県実施調査（P6（3）①カ 参照）では、公立中学校夜間学級に期待することについては、「高校入学資格の取得」※、「中学校教育の修了」、「中学校程度の学力習得」、「読み書きの習得」、「学校生活の体験」、「就労・生活のため」といった、どの項目においても多くの選択がなされている。
- ・このことは、岡山市実施調査（P7カ 参照）においても同様であることを考慮すると、公立中学校夜間学級に多様な役割が期待されていると考えることができる。

※「高校入学資格の取得」は、高校への入学を目指し中学校を卒業したいという期待、「中学校教育の修了」は、中学校を卒業したいという期待、「中学校程度の学力習得」は、中学校は卒業しているが学習内容を学び直したいという期待を把握することを想定している。

公立中学校夜間学級とは異なる、義務教育段階の内容の学び直しができる場の充実について今後とも検討が必要

- ・今回の調査では、県内全域から1,157人の回答があったが、回答を精査すると、公立中学校夜間学級での学びを中心としつつ、月1、2回程度、義務教育段階の内容の一部を学習するような学び直しを希望する方や、生涯学習の視点から義務教育段階の学習内容を含め広く学びたいといった希望も含まれていた。
- ・このことは、仮に将来において県内に公立中学校夜間学級が設置されたとしても、それだけでは県民の学び直しの希望に応えきれない可能性があることを示している。
- ・県教育委員会では、前回調査の報告を受け、平成31年度より「公民館等を活用した夜間学び直し推進事業」として、県生涯学習センター及び倉敷市内、津山市内、備前市内において、生涯学習の視点から、社会教育施設等で、義務教育段階の学習内容も含め、個々のニーズに沿った学び直しの機会を提供する「学び直し教室」の取組を行っており、令和2年11月現在の登録者は、それぞれ10人、16人、32人、14人である。
- ・岡山市教育委員会でも、令和2年7月以降、市内2カ所で「夜間教室」を開設しており、令和2年11月現在の登録者は、9名である。

- ・学び直しを希望する方の居住地域は県内広域にわたっており、公立中学校夜間学級の設置に向けた検討と並行して、例えば、「学び直し教室」等のような公立中学校夜間学級とは異なる、義務教育段階の内容の学び直しができる場の充実について今後とも検討が必要である。

その他

- ・全国の公立夜間中学33校の生徒数については、10人台～20人台は10校（30%）、30人台～40人台の学校は12校（37%）であった（巻末資料P39「既設公立夜間中学 生徒数一覧」参照）。
- ・国の「基本指針」では、「不登校となっている学齢生徒を、本人の希望を尊重した上で夜間中学等で受け入れることも可能」とされているが、公立中学校夜間学級の設置に向けた検討の中で協議されることを期待する。
- ・P8に示したように、19人に対してヒアリング調査を実施したところであるが、今般の新型コロナウイルス感染症の影響により、学び直し教室等に参加できないことで、十分なヒアリング調査に至っていなかった可能性があり、引き続き把握を行う必要があると考える。

3 調査研究のまとめ

(1) 考察のまとめ

- ・県内において、公立中学校夜間学級に対する県民の認知が広がり、潜在的ニーズの掘り起こしに結びついていることが推定され、公立中学校夜間学級での学びのニーズは、「幅広く捉えたとき一定数ある※1※2」、と考えることが妥当である。
- ・一定数には、義務教育未修了者で公立中学校夜間学級の学びを希望する方10人に加え、不登校など様々な事情から実質的に十分な教育を受けられないまま学校の配慮等により卒業した者や、本国において義務教育を修了していない外国籍の方で、公立中学校夜間学級での学びを希望する方も含まれている。
- ・ニーズは県南部の都市部を中心に広域であり、今後、設置に向けて検討する際には、交通の利便性も考慮して、検討が行われる必要がある。
- ・公立中学校夜間学級での学びを希望する外国籍の方の潜在的ニーズの掘り起こしに結びつくような、更なる周知等を検討する必要がある。
- ・公立中学校夜間学級の設置に向けた検討と並行して、公立中学校夜間学級とは異なる、義務教育段階の内容の学び直しができる場の充実について今後とも検討が必要である。
- ・今般の新型コロナウイルス感染症の影響により、学び直し教室等に参加できないことで、十分なヒアリング調査に至っていなかった可能性があり、引き続き把握を行う必要があると考える。

※1 P9(4)①で考察しているように、アンケート調査で「公立中学校夜間学級で、自分が学びたい」と回答した方は、県内全域で227人であるが、学び直しの希望の態様は個人により多様で複雑であり、227人という数値が、公立中学校夜間学級での学びのニーズを、直接表す数値と捉えることには慎重であるべきである。また、個々の状況について把握できない中で、恣意的に除外することは適切とはいえない。そのため、「幅広く捉えたとき一定数ある」と考えることが妥当と判断した。

※2 一定数には、支援者が把握している公立中学校夜間学級での学びが適する方がいる可能性を含んで考えることが適切であることに留意が必要(P14参照)。

(2) 調査研究委員会としての提案

このたびの調査において、公立中学校夜間学級での学びのニーズは、幅広く捉えたとき一定数ある、としたことなどを踏まえ、今後、県教育委員会は公立中学校夜間学級の設置に向け、主体的に取り組むとともに、広域行政体として、市町村教育委員会においても前向きに検討が行われるよう働きかけ、市町村間の調整を図ることが必要である。

また、国は全ての都道府県に加え、全政令市にも夜間中学の設置を促すとしており、岡山市においては、令和2年度に学び直しの場のための夜間教室を開設して、その必要性についても検討する等、政令市として独自に取り組むを推進していることを踏まえ、県教育委員会は、岡山市教育委員会と引き続き情報共有をするなど、十分連携していくことを提案する。

なお、公立中学校夜間学級を開設し継続的に教育活動を行うにあたって、ヒアリング調査では、入学対象になり得ると考えられる方について、必ずしも十分な人数を確認することができなかった。このことについては、一般の新型コロナウイルス感染症の影響により、学び直し教室等に参加できないことで、十分なヒアリング調査に至っていなかった可能性がある。このことを踏まえ、設置に向けた検討と並行して、実際に入学可能な方の把握を継続して行う必要がある。

資料

- 1 調査研究委員会委員
- 2 調査研究委員会開催状況等
- 3 岡山県における公立中学校夜間学級に関するニーズ調査結果
 - ・アンケート調査の結果
 - ・アンケート調査用紙（日本語版、英語版、中国語版）及び返信用封筒
 - ・ポスター
- 4 既設公立夜間中学 生徒数一覧
- 5 県外視察について

<資料1> 調査研究委員会委員

【平成28年度】

	石原 洋重	高梁市教委学校教育課 課長補佐
	一守 和弘	岡山市教委指導課教育支援室 室長
	小川 俊一	県立鳥城高等学校 教頭
○	梶井 一暁	岡山大学大学院教育学研究科 准教授
	角野 いずみ	オレンジハートつやま 代表
	笠原 和彦	倉敷市教委学校教育課 課長補佐
	甲本 智之	美作市教委学校教育課 課長補佐
	小林 英一	県青少年総合相談センター 所長
	松井 啓子	赤磐市教委学校教育課 課長補佐

【平成29年度】

	有森 真理	倉敷市教委学校教育課 課長補佐
	一守 和弘	岡山市教委指導課教育支援室 室長
	小川 俊一	県立鳥城高等学校 教頭
○	梶井 一暁	岡山大学大学院教育学研究科 准教授
	角野 いずみ	オレンジハートつやま 代表
	甲本 智之	美作市教委学校教育課 課長補佐
	小林 英一	県青少年総合相談センター 所長
	齋藤 秀哉	県教育庁生涯学習課 総括副参事
	志田 圭子	高梁市教委学校教育課 課長補佐
	松井 啓子	赤磐市教委学校教育課 課長

【平成30年度】

	有森 真理	倉敷市教育委員会学校教育部指導課 課長補佐
	逢坂 親秀	岡山県立鳥城高等学校 教頭
○	梶井 一暁	岡山大学大学院教育学研究科 准教授
	角野 いずみ	NPO法人 オレンジハートつやま 代表
	小林 英一	岡山県青少年総合相談センター 所長
	永井 正博	岡山市教育委員会指導課教育支援室 室長補佐
	新田 治彦	生涯学習課 総括主幹(企画推進班長)
	美若 知美	津山市教育委員会学校教育課 課長補佐

【平成31年度】

	赤崎 哲也	倉敷市教育委員会学校教育部指導課 課長補佐
	岩井 典昭	備前市教育委員会学校教育課 課長補佐
	逢坂 親秀	岡山県立鳥城高等学校 教頭
○	梶井 一暁	岡山大学大学院教育学研究科 教授
	角野 いずみ	NPO法人 オレンジハートつやま 代表
	小林 英一	岡山県青少年総合相談センター 所長
	杉本 伸一	津山市教育委員会学校教育課 課長補佐
	永井 正博	岡山市教育委員会指導課教育支援室 室長補佐
	新田 治彦	生涯学習課 総括主幹(企画推進班長)

【令和2年度】

	安東 和伸	備前市教育委員会学校教育課 課長補佐
	逢坂 親秀	岡山県立鳥城高等学校 教頭
○	梶井 一暁	岡山大学大学院教育学研究科 教授
	角野 いずみ	NPO法人 オレンジハートつやま 代表
	小林 英一	岡山県青少年総合相談センター 総合コーディネーター
	杉本 伸一	津山市教育委員会学校教育課 課長補佐
	永井 正博	岡山市教育委員会指導課教育支援室 室長
	松本 綾子	生涯学習課 総括副参事(企画推進班長)
	湯地 嘉隆	倉敷市教育委員会学校教育部指導課 課長補佐

(五十音順 敬称略)

○ 委員長

<資料2> 調査研究委員会開催状況等

委員会	開催年月日	協議内容
平成28年度		
第1回調査研究委員会	H28.7.14	<ul style="list-style-type: none"> 委員会設置の経緯についての説明（国の動向、他県の状況について） 研究の進め方についての協議等
第1回専門部会	H28.11.21	<ul style="list-style-type: none"> 神戸市教育委員会と神戸市立兵庫中学校北分校への視察報告 中学校夜間学級入学のニーズ調査について
第2回調査研究委員会	H29.3.13	<ul style="list-style-type: none"> ニーズ調査の結果について 相談者への対応について 今後の調査研究の方向性について
平成29年度		
第1回調査研究委員会	H29.6.6	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度の取組について 相談者の状況、学び直しの機会の提供について
第1回専門部会	H29.11.24	<ul style="list-style-type: none"> 県外視察等の報告及び協議 他県の調査に係る報告書等について
第2回専門部会	H30.2.2	<ul style="list-style-type: none"> 市町村への聞き取り及び自主夜間中学校等の取組について報告 報告書内容の協議
第2回調査研究委員会	H30.2.20	<ul style="list-style-type: none"> 報告書内容の最終協議
平成30年度		
第1回調査研究委員会	H30.9.3	<ul style="list-style-type: none"> 今後の方向性について 関係機関との連携について 今後のニーズ調査について
第2回調査研究委員会	H30.11.20	<ul style="list-style-type: none"> 学び直しの機会の把握状況について 今後のニーズ調査の在り方について
第3回調査研究委員会	H31.2.19	<ul style="list-style-type: none"> 学び直しへの支援状況調査を踏まえた県内の状況について 今後のニーズ調査の在り方について
令和元（平成31）年度		
第1回調査研究委員会	R1.7.2	<ul style="list-style-type: none"> 今年度実施のニーズ調査について
第2回調査研究委員会	R1.12.19	<ul style="list-style-type: none"> ニーズ調査の結果（中間報告）について
第3回調査研究委員会	R2.2.19	<ul style="list-style-type: none"> 公立中学校夜間学級のニーズ調査結果に対する考えについて
令和2年度		
第1回調査研究委員会	R2.12.25	<ul style="list-style-type: none"> 報告書内容の協議
第2回調査研究委員会	R3.1.19	<ul style="list-style-type: none"> 報告書内容の協議

＜資料3＞

岡山県における公立中学校夜間学級に関する ニーズ調査結果

岡山県公立中学校夜間学級調査研究委員会

【アンケート調査の結果】

○ 基礎データ

□ 調査時期

令和元年9月2日（月）～令和元年10月31日（木）

□ 調査用紙について

日本語版	12500枚
英語版	5400枚
中国語版	5400枚

□ 調査用紙設置・配付場所（いずれも岡山市内を除く）

図書館	59ヶ所
公民館	216ヶ所
市町村教育委員会・役場	26ヶ所
ハローワーク	11ヶ所
就労支援施設	3ヶ所
学び直しの場等	5ヶ所

□ 回答回収枚数

347枚
(うち岡山市在住者の回答5枚)

※本調査は、岡山市以外の26市町村を対象として実施した。なお、岡山市在住者からの回答が5枚あったため、内数として集計に含めた。

質問 1

(1) あなたは公立中学校夜間学級で学んでみたいと思いますか。

1 学びたい	84人 (うち岡山市在住者5人)
2 学んでみたいとは思わない	243人
無回答	20人
計	347人

(2) 「1 学びたい」と回答した方に聞きます。なぜ学びたいのか、理由を教えてください。(1人が複数回答した場合あり)

1 中学校を卒業していないから	4人 (うち岡山市在住者2人)
2 卒業したが、学び直したい	52人 (うち岡山市在住者2人)
3 外国人で中学校の知識や技能を学びたい	19人
4 その他 (記述のあったもの)	16人

- ・ 学び足りない。(70代・倉敷市)
- ・ 知人に不登校児がいるため。(10代・倉敷市)
- ・ 子供の勉強を手伝う時に必要な知識を得たい。(40代・鏡野町)
- ・ 最新の授業風景及び内容を知りたい。但し、テストはいや。
(60代・備前市)
- ・ 今の情報に古い知識が合致しない。(50代・倉敷市)
- ・ 中学校に行きたがらないから。(10代・倉敷市)
- ・ 全日制の昼間の中学校に行けないため。(40代・倉敷市)
- ・ 外国の学校で幼・小・中・高を学んだため。(40代・備前市)
- ・ 我が子が(万が一ですが)不登校になって中学を卒業した後、夜間中学校があったら心強いです。(40代・倉敷市)
- ・ テスト以外の学習知識を得たい。(50代・倉敷市)
- ・ 古い知識だと現在の情報に合わない。(50代・倉敷市)
- ・ テキストを読み解くのに必要なため。(50代・倉敷市)
- ・ 授業内容を知ってみたい。(年齢と居住地の記載なし)
- ・ 不登校のため。(10代・真庭市)
- ・ 嫌いな科目はほとんど真剣に学んでいなかった。今頃になって日常生活の中で疑問を持ち始めたから。(60代・真庭市)
- ・ 自分が卒業できていなかったとしたら、学びたいと思うから。
(10代・真庭市)
- ・ 学力格差によって、落ちこぼれたため。(50代・倉敷市)
- ・ I would like to syudy Nihongo and Japanese traditional music.
(30代・倉敷市)
- ・ 日本語が上手になりたいから。(30代・倉敷市)
- ・ 日本語をもっとべんきょうしたい。(20代・倉敷市)
- ・ 不登校で学校に行っていないので学びたい。(40代・倉敷市)
- (・ 高齢のため。(70代・矢掛町) ←「2 学びたいとは思わない」を選択した方)

(3) 「1学びたい」と回答した方に聞きます。

①年齢

10代 (7人) 20代 (9人) 30代 (8人)
40代 (15人) 50代 (13人) 60代 (15人)
70代以上 (11人)
無回答 (1人)

②お住いの市町村（「1学びたい」と回答した方の市町村のみ掲載）

倉敷市	28人	津山市	13人
玉野市	0人	笠岡市	10人
井原市	2人	総社市	1人
高梁市	1人	新見市	0人
備前市	2人	瀬戸内市	0人
赤磐市	1人	真庭市	2人
美作市	0人	浅口市	2人
和気町	0人	早島町	0人
里庄町	0人	矢掛町	9人
新庄村	0人	鏡野町	1人
勝央町	0人	奈義町	0人
西粟倉村	0人	久米南町	0人
美咲町	0人	吉備中央町	2人
居住地の記載なし	5人	計	79人

※岡山市在住者 5人

20代 (1人) 60代 (2人) 70代以上 (2人)

質問 2

(1) 公立中学校夜間学級のことを知らせたいと思う人があなたのまわりにはいますか。

1 身近にいる	38人 (うち岡山市在住者2人)
2 思いつく人がいる／場所(団体、職場など)がある	23人
「2 具体的な場所」の記述	
<ul style="list-style-type: none"> ・ NPO 法人 ・ 鏡野町内で思春期のひきこもり支援(主に家族支援)をしているボランティア団体 適当か望まれるか分かりませんが。 ・ 中学校在学中 ・ 外国人労働者の研修先 ・ 外国から嫁いできた。 	
3 まわりにいない	272人 (うち岡山市在住者2人)
無回答	14人 (うち岡山市在住者1人)
計	347人

(2) 上の質問で「1 身近にいる」または「2 思いつく人がいる／場所(団体、職場など)がある」を選んだ方に聞きます(質問は①から④まであります)。

①その人(たち)に知らせたい理由を教えてください。(複数回答あり)

1 中学校を卒業していないから	12人 (うち岡山市在住者2人)
2 卒業したが、学び直してほしい	31人
3 外国人で中学校の知識や技能を学んでほしい	19人 (うち岡山市在住者1人)
(番号を選択せず)子どもが現在不登校で、将来的にそのような学び直しの場があればよいと思うから	

②その人(たち)とあなたとの関係を教えてください。(複数回答あり)

1 家族・親族 (具体的に) 孫、小4の息子、子供、姉と弟	7人 (うち岡山市在住者1人)
2 友人・知人	37人 (うち岡山市在住者1人)
3 その他 (具体的に) となりの家の子、NPO法人活動の中で知り合った、近所の作業所、会社で働いている人、高齢者、ボランティア先、地域のボランティア団体と社協、職場体験に来た生徒、友人よりきいた、ボランティア活動で日本語教室で知った人達、昔働いた同僚	11人 (うち岡山市在住者1人)

③その人（たち）のことを教えてください。

倉敷市	35人	10代 16人・20代 3人 30代 12人・40代 2人 50代 1人・60代 1人 70才以上 0人
津山市	26人	10代 6人・20代 10人 30代 0人・40代 1人 50代 5人・60代 3人 70才以上 1人
玉野市	0人	
笠岡市	4人	10代 1人・20代 1人 30代 2人
井原市	6人	10代 3人・20代 1人 30代 2人
総社市	1人	10代 1人
高梁市	0人	
新見市	30人	20代 30人
備前市	1人	50代 1人
瀬戸内市	0人	
赤磐市	0人	
真庭市	1人	10代 1人
美作市	1人	10代 1人
浅口市	1人	40代 1人
和気町	0人	
早島町	0人	
里庄町	0人	
矢掛町	10人	20代 10人
新庄村	0人	
鏡野町	1人	30代 1人
勝央町	0人	
奈義町	0人	
西粟倉村	0人	
久米南町	0人	
美咲町	0人	
吉備中央町	2人	10代 1人・60代 1人

※その他

笠岡市・福山市	5人	20代 2人・30代 3人
岡山市・井原市	2人	30代 1人・40代 1人
倉敷市・総社市	3人	10代 3人
倉敷市・岡山市	複数	10代 複数
いろいろ	数人	70代 数人

※岡山市在住者

5人（60代 3人 ・ 70代 2人）

質問 3

あなたが公立中学校夜間学級に期待することは何ですか。(いくつでも○)

1 高校入学資格の取得	147人(うち岡山市在住者1人)
2 中学校教育の修了	131人(うち岡山市在住者2人)
3 中学校程度の学力習得	211人(うち岡山市在住者3人)
4 読み書きの習得	143人(うち岡山市在住者5人)
5 学校生活の体験	105人(うち岡山市在住者2人)
6 就労・生活のため	156人(うち岡山市在住者2人)
7 その他	27人

・16歳以上ではなく現中学生で不登校になっている子達も通える様にしてほしいです。

・引きこもりにならずに少しずつでいいので夜間で良いので中学生らしく生活して未来を見つめて欲しい。

・今、中学校に行けていない子達の通える学校にもして欲しい。

・なぜ岡山にないのかふしぎ。

・人生やり直しができることを教えてあげて欲しい。不登校から、ひきこもりになる子達に希望をあたえて欲しい。

・学び直しによる人間力の向上

・老後の生きがいづくり

・高校進学したいが学力不良

・知的障がい者の学習の場として

・学ぶことの喜び

・日本文化の学びなど

・友だち作り

・人とのかわりを持てる

・最近多くの外国人にもう少し日本をわかってもらえる為に門を開くのもよい。

・協調性の取得

・信用できる友達をつくれる。

・年齢制限をもうけない 各主要都市に設置 必ずかしければ、巡回(公民館)教室

・コミュニケーションの向上

・正しい国史教育 古事記をきちんと教える事、を期待する。

・外国籍の方に対する教育 外国人とのコミュニケーション、日本慣習、社会の習得

・この調査の対象は、私みたいな普通に学校に行って卒業できた人より夜間中学の対象になる方にしたほうが良いのかなと思いました。岡山でどのくらいの人が必要としているのか、なぜ必要なのか?今現在行っている人の思いや実際習ってみてどうかなど詳しく聞いた方が参考になるのではないのかなぁと思いました。

・金銭が発生してもいいので普通の中学校を卒業した人でも授業が受けれる様にして欲しいです。

・一般的な基礎知識 生活に困らないようにする知識等

・外国籍の方々やその子孫が、日本でこれからも日本人と同じように生活していきたいと望む場合、それが、実現できるような教育を受けることができる基礎になる学力をつける。

・人生を豊かにする為に

・学ぶ楽しさを経験し、前向きな意識になるため、自己肯定感を高める、自信を持つ

・同世代とのふれあい 問題に向かう姿勢を身につける。

- ・ 外国からお嫁に来られた人がいます この様な人に勉強の機会があればいいと思います。
- ・ せっかく学ぶ意欲がわいた人への適切な支援（最後まで続けられるような）
- ・ 必要な人が気軽に行けるような情報発信
- ・ 同じ思いをもつ方と知り合えるから
- ・ 人生のため
- ・ 変化後の教科内容を使える。
- ・ 改訂後の学習内容を知ることができる。
- ・ せまい範囲の深い情報
- ・ 友に学ぶ友人の存在が一番だと思います。周囲の人々のはげまし、偏見の除去がたいせつと思います。
- ・ 業界誌をスムーズに読めるようになる。
- ・ 日本語の勉強
- ・ 京都にある夜間中学校 フリースクールのように。

無回答

8人

質問 4

ご意見があれば自由に書いてください。

- ・ 特にない。就労、生活をよろしく。
- ・ <質問 3> は身近に夜間学級を必要としている人を知りませんので回答出来ませんでした。
- ・ 夜間中学が増えればいい。
- ・ 英語を学び直したい。夜間とは、具体的に何時からか、何時に終了か、わからない。
- ・ ※不登校の児童がいたが、今は様々な高校があり（海外にも）学力がなくても大学にも進学できている？！（比較的裕福な家庭の場合） ※家庭事情で教育を受けられない児童の支援は必要だと思います。
- ・ 山田洋次監督の「男はつらいよ」に寅次郎が夜間中学？夜間高校？入学を考える回があります。その回には考えさせられるものがあります。
- ・ 見近に登校をいやがる小中学生がいます。とても心が痛みます。
- ・ 以前、TVでお年寄りの方が、シニアスクールや大学に通われているニュースを見ました。そのお年寄りの方々は学ぶ事に生きがいを感じておられたのが印象的で、アンケートに書かせていただきました。私は小学生と中学生の子がおり、勉強を聞かれた時のためや、自分の学び直し、生きがいとしての勉強のため、学んでみたいと思いました。
- ・ 団体活動の一環で、サポートすることが可能かもしれない。
- ・ 身近にそういう方は思いあたりませんが、大変良い取り組みだと思います。
- ・ 一般者の体験日を設けて欲しい。プライバシーの問題が無ければ、ですが。
- ・ <1>でも書いたが、教育の内容は日々新しく変わっていきます。全分野を取得することは、とうてい不可能と思われるので、個々のピンポイント的な学習内容に対応してもらえるとありがたい。
- ・ 今、公立中学校夜間学級は少ないからこの機会に増やしてもいいと思う 今の時代学歴はあっても職はないから。 以上
- ・ 夜間中学は、16才以上の人向けですが現在、中学生で色々悩んでいる子達も通える学校にしてほしいです。
- ・ 夜間中学校を開設しても岡山市に設置されることになるだろうから、岡山市から離れた市町村在住者は通えない。県の出先機関で分けた9つの地域に夜間中学ではなく中学校程度の学力習得ができる生涯学習教室を整備するべきだ。夜間中学にこだわるべきではない。
- ・ 人口の多い岡山市内に開設することになるだろうから遠い地域の方は利用が難しいのではないか。一部の地域の人しか利用できないなら県ではなく政令市の岡山市が整備するのが望ましい。一部の地域にしかメリットがないものは県が関与すべきではない。
- ・ 夜間中学？ 私の同級生や周りには、そういう必要性のある方はおられませんが、地域の中学校が、過疎で、閉校、マンモス中へ統合され、それがきっかけで、中学校に行けなくなった人がいました。そういう方々のためには、必要性があると思います。是非、実現にむけ、頑張ってください！
- ・ 専門学校か大学を受験したいのでまた勉強をしたいです。
- ・ 全ての子達に学ぶ権利を！！
- ・ 大変お世話になります。周囲に不登校が原因で低学力の方や協同体験が極めて少ない方などいると思われそうですが、情報が伝わってきません。
- ・ 生涯自立して生活するために必要なことだと思うので対象者が少なくても、実施すべきだと思います。夜間通うことは本人にも大変なことだと思いますが、通いたい人はいると思います。

- ・ 様々な理由で、中学校教育を受けなかった、又は、受けられなかった人々に、教育の場を提供し、学んでもらう事は、日本の国益に継がると思いますし、個人の生活の場を広げる事にもなると思うので、必要です。田舎では、中学教育を受けていない人はいない。(そう言う人がいたら近所の人が目を配っている) と思います。
- ・ 不登校になってしまう原因は人それぞれ違うし、もしかしたら環境さえ変えれば学校に行ける子もいると思います。その子たちのためにも1つの選択として学ぶ場所や学校生活の体験ができればいいなと思っています。夜間中学が家以外の自分が出せる場所の1つになってもらえたらいいなと思います。そして、できれば心のケアをする方がいると行きやすくなるかな? と思います。
- ・ 人創りは国創りです。前向きの取り組みよろしくお願いします。備前市民です。必要有る時は備前市担当部署に相談します。
- ・ 今回国語算数の勉強を学び直す機会を与えて頂きありがたく感謝しています。この学びを何か今後に生かせればと思い頑張っています。友人たちにもこの様な学びを通じて欲しいと思っています。(社会参加)
- ・ 早急な設置が求められている。
- ・ 初めて中学にも夜間中学校があることを知りました。もっとたくさんの人に周知して行ってほしいです。
- ・ 病気や家庭の事情で、その他諸々の事情も含む学ぶことのできなかった方には、学ぶ機会が必要だと思う。特別な場所でなく、身近にある学校で行われていれば、わかりやすい。そういう取り組みが、行われているということを知らなかったのも、私のような人は多いと思う。
- ・ 早急に県内に公立夜間中学校を設置すべく、行動をおこしていただきたい。※質問1で「学びたい」か「学んでみたいとは思わない」という問いの仕方はいかがなものか。
- ・ 意欲はあるのに遠距離のために通学できない人間を発生させないでほしい。
- ・ 自主夜間中学の推進も必要です。(公立の数は、多くは期待できない) 自主の方へも資金援助しながら、公立の数も増やしてほしい。
- ・ 学校で使われる図書教材だけが、この全てではないと思います。個々に合った市販品の持ち込みを許可してほしい。
- ・ 卒業したとかの学歴より、何を学び勉強して生活していく上で役立つ様に一人ひとり身に付けて欲しい事を期待する。例えば自動車等の運転免許に合格する位の学力を身に付けて欲しい。原付は今の法律で16才なのも中学卒業の年齢だと思う。
- ・ この質問全体に不信をいただく。いるかいないかで決めるのではなく、現に夜間中学で学んでいる人や教えている人が居る事を重く受け止めるべきである。
- ・ 全ての教科をまんべんなく受けなければ認められなかった半世紀前とはちがい、受けた授業の時間数「個々の興味が強い順」をクリアしていく方式を望む。
- ・ 県北に夜間中学校を。例えば勝間田高校に併設するというのはどうか。
- ・ 外国人が多く、日本で働く人が増えている その人達の教育の場として良いと思う。
- ・ 日常生活のために必要最低限の読み書きを公的機関で教える場所が必要だと思います。学校という場でなくても各都市の公民館などに、そういった教室を設置して下さい。学びたい人が学べる場所を提供して下さい。
- ・ 近くにそういった場があれば是非通ってみたいです。私の時代は英語と家庭科の選択で後者をとった為に進学の時とても大変でした。基礎から勉強できたらと思っています。高齢ですからついていけないでしょうね?
- ・ 県北ではムリなことと思っています。
- ・ 私のまわりには、夜間中学を今必要としている人はいませんが、TVのニュースや新聞で各地の夜間中学(県外ですが)の役割を知ると、岡山にも対象者、必要とする人はいるはずなので、国の方針でもあり、1つは公的な夜間中学をつくってほしいです。
- ・ まず、中学校教育を修了すると、日常生活に支障がないと思われれます。日本で生きら

れる方には絶対必要だと思えます。私自身は、60代になって初めて、理科系の知識が全く欠けていて情けないと思い始めました。学習意欲が高まっています。岡山市内には学び直しをしている所があると聞いています。すみません 直接夜間教育とは少し離れているかもしれませんが。

- ・卒業後にもう一度、勉強をやり直してほしい
- ・現在学齢期であるが、学校へ通えていない子たちの学びの場にするのは難しいのでしょうか？ ぜひ実現していただきたいです。
- ・様々な理由で学校に通えなかった方に、この様な場や機会をもつことができるのは、とても良いと思えます。
- ・図書館で偶然ポスターを見かけ、アンケートに協力したいと思いました。自分は高校生なのですが、もしこの取りくみを実現したら、嬉しく思う人がたくさんいると思います。今後また何らかの形で参加できることがあれば、関わっていきたいと思いました。この学校は、必要だと思えます！
- ・不登校の子供達の居場所の一つになる可能性があると思っています。
- ・井原市には市内全域が学区となっている小さな小学校もあり、そのような小さな中学校があったらいいねと話しています。いままでなかった中学校を作るという点で夜間中学のとり組みに興味を持っています。
- ・不登校だった方が学び直せる場をつくってほしい。長くひきこもってしまわない様に、きっかけを作る場所ができるとよいと思う。
- ・経済力の差がそのまま成績の差となって、学校の授業が消化できないまま卒業した人間を優先してほしい。
- ・就学年齢をすぎってしまった為必須レベルの学業が身につけてない日本人や、今般増加している海外（主として東・東南アジア）からの研修生・就労者等に耳学問だけでなく日本社会で暮らす為の読み書き・計算・社会通念上の常識等を身につけてもらう為には既存の昼間の中学校では扱えない集団が大きくなっている現在、夜間中学の存在は最低でも中核都市以上には必要だと思う。
- ・このような取組は重要だと思います。読み書きや計算ができるのが当たり前と思っはいけないということを知りました。誰もが暮らしやすい社会になってほしいです。このような場は必要だと思います。
- ・我々年を重ねた者でも学びたいと思う者は多くいると思うので、実現していただければ嬉しい。
- ・戦後焼け野原からの神戸の夜間中学校の教育理念は今日、忘れた人の心に多くある、誰のための教育？ 岡山県教育庁って？
- ・If there's Japanese music lesson and technical skills I would like to study those kind of things.
- ・現在は、ベトナムからの研修生が多数のため低年齢の人達を見うけることがなくなりました 日本語を教えるだけ、中学、高校それからの人生を・・・とを思うと、夜間中学の必要性はとても大切と思ってます。
- ・自分には関わりのなかった所ですが、必要とされている方もおられると聞いております。ぜひ夜間中学校設置をお願いします。
- ・年をとってからの勉強は楽しいと思う。
- ・夜間中学が開校することを願っています。
- ・生徒の学力の幅も広いのでもう少し先生の人数を増やしてほしいです。
- ・テレビでこの紙のことで知り、図書館で手に入れました。いそがしくて10/31までに間に合いませんでしたが、夜間中学を開校してほしいのでお手紙を書きました。子供は今現在学校に行ける状態ではありませんが、近年中に行けるようになったとき、ぜひ入学してほしいと思っています。親の考えなので本人にも伝えてしっかり話し合っていこうと思っています。よろしくをお願いします。

＜質問2＞の続き

③その人(たち)のことを教えてください。

- (1)年齢： 10代(人) 20代(人) 30代(人) 40代(人) 50代(人) 60代(人) 70才以上(人)

(2)その人(たち)がお住まいの市町村

(市・町・村)

④その人(たち)の支援活動にあなたが関わっている場合、その団体名などに

ついて教えてください。

- 1 福祉、教育、社会的弱者支援(団体名など)
- 2 外国人支援(団体名など)
- 3 その他(団体名など)
- 4 特になし

＜質問3＞

あなたが公立中学校夜間学級に期待することは何ですか。(いくつでも)

- 1 高校入学資格の取得
- 2 中学校教育の修了
- 3 中学校程度の学力習得
- 4 読み書きの習得
- 5 学校生活の体験
- 6 就労・生活のため
- 7 その他(具体的に：)

＜質問4＞

くわしく話を聞かせていただけたら方や相談がある方は、お名前と電話番号を教えてください。

お名前()電話番号()

＜ご意見があれば自由に書いてください＞

ご協力、ありがとうございます。返信用封筒に入れて送付してください。

こうりつちゅうがっこうやかかんがっきゅう やかんちゅうがく
公立中学校夜間学級(夜間中学)の

ちようさ きようりよく

ニーズ調査にご協力ください!

(ご協力いただける場合は、返信用封筒も一箱にお取りください)

こうりつちゅうがっこうやかかんがっきゅうのニーズ調査を行いますので、あなたの
公立中学校夜間学級のニーズ調査を行いますので、あなたの
ご意見をお聞かせください。切り取り線で切り取り、アンケートに
ご記入いただき、返信用封筒に入れ、ポストに投函してください。

アンケートの内容は、教育施策の検討のみに利用しますので、
アンケートの内容は、教育施策の検討のみに利用しますので、
個人の回答内容が他にもれたり、他の目的に利用したりすることは
一切ありません。

ご連絡先を書いていただきました方には、義務教育課から連絡させ
ていただく場合もあります。

＜お問い合わせ先＞

岡山県教育庁 義務教育課 指導班

岡山県教育庁 義務教育課 指導班

岡山県教育庁 義務教育課 指導班

岡山県教育庁 義務教育課 指導班

岡山県教育庁 義務教育課 指導班

電話やメールでも、

ご意見を受け付けています!



岡山県もっち、うらちちと仲間たち

●「公立中学校夜間学級（夜間中学）」とは・・・

公立中学校夜間学級（夜間中学）とは、夜の時間帯に授業を行います。

公立中学校夜間学級は、様々な理由により義務教育を修了できなかった人や、不登校等のためにほとんど学校に通えなかった人、また本国内で義務教育を修了していない外国籍の人などの学び場です。

- 毎日、授業があります（土日、祝日を除く）。授業料は無償です。
- 昼間の中学校と同じ教科（国語、社会、数学、理科、音楽、保健体育など）の授業があります。
- 教員免許を持っている公立中学校の教員が指導します。
- 全ての課程を修了すれば、中学校卒業となります。

●公立中学校夜間学級（夜間中学）は、次のような方を対象にしています。

- ① 満16歳以上で、中学校を卒業していない方
 - ② 中学校を卒業しているが、不登校や病气、家庭の事情などにより、中学校での教育をほとんど受けられなかった方
- ※①②ともに、外国籍の方も対象となります。



©岡山県ももっち

あてはまるところに○をしてください。質問は裏面もあります。

<質問1>

- (1) あなたは公立中学校夜間学級で学んでみたいと思いますか。
 - 1 学びたい
 - 2 学んでみたいとは思わない→質問2へ
- (2) 「1 学びたい」と回答した方に聞きます。なぜ学びたいのか、理由を教えてください。
 - 1 中学校を卒業していないから
 - 2 卒業したが、学び直したい
 - 3 外国人で中学校の知識や技能を学びたい
 - 4 その他（具体的に：_____）
- (3) 「1 学びたい」と回答した方に聞きます。
 - ① 年齢： 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70才以上
 - ② お住まいの市町村（_____市・町・村）

<質問2>

- (1) 公立中学校夜間学級のことを知らせたいと思う人があなたのまわりにいますか。
 - 1 身近にいる
 - 2 思いつく人がいる／場所（団体、職場など）がある
 - 3 まわりにいない→質問3へ
- (2) 上の質問で「1 身近にいる」または「2 思いつく人がいる／場所（団体、職場など）がある」を選んだ方に聞きます（質問は①から④まであります）。
 - ① その人（たち）に知らせたい理由を教えてください。
 - 1 中学校を卒業していないから
 - 2 卒業したが、学び直してほしい
 - 3 外国人で、中学校の知識や技能を学んでほしい
 - ② その人（たち）とあなたとの関係性を教えてください。
 - 1 家族・親族（具体的に：_____）
 - 2 友人・知人
 - 3 その他（具体的に：_____）

Continuation of <Question 2>

③Please tell us his/her (or their) age.

- (1)Age : Teenager (Number of people:) 20s (Number of people:)
- 30s (Number of people:) 40s (Number of people:)
- 50s (Number of people:) 60s (Number of people:)
- 70s or older (Number of people:)

(2)His/Her (or Their) city/town/village of residency.

(_____) City • Town • Village

④Please tell us the support activity at which you have contact with him/her (or them) and the name of that group.

- 1 Welfare, Education, Support for the Socially Weak (Name of Group : _____)
- 2 Support for Foreigners (Name of Group : _____)
- 3 Other (Name of Group : _____)
- 4 None in Particular

<Question 3>

Please tell us about what you are expecting from Public Middle School Nighttime Class (You can select more than one.)

- 1 Acquisition of high school entrance qualification
- 2 Acquisition of middle school education
- 3 Acquisition of middle school level academic ability
- 4 Acquisition of reading and writing skills
- 5 School life experience
- 6 For work/livelihood
- 7 Other (Specifically : _____)

<Question 4>

For those who will let us hear your story in detail, or those who have questions or concerns, please provide your name and phone number.

Name (_____) Phone (_____)

<If you have any opinions or comments, please feel free to write them.>

Please cooperate with Public Middle School Night Time Class' (Nighttime Middle School's) Needs Survey!

(For those who will be participating in the survey, please take a Response Envelope as well)

We will be conducting a Needs Survey for Public Middle School Nighttime Class, so please allow us to hear your opinion. Please cut along the dotted lines, fill out the questionnaire, put it inside the Response Envelope and send it out. The content of the questionnaire will only be used for the review of educational policies, so there will be no cases of personal content or answers being leaked or used for other purposes.

Those who have provided their contact information may be contacted by the Compulsory Education Division.

<For Inquiries>

Okayama Prefecture Education Bureau,
Compulsory Education Division, Guidance Team

2 - 4 - 6 Uchisange, Okayama Prefectural
Government Bureau

Telephone : 0 8 6 - 2 2 6 - 7 5 8 4

FAX : 0 8 6 - 2 2 4 - 3 0 3 5

E-Mail : gimu@pref.okayama.lg.jp

We are also accepting opinions via phone and E-Mail!



©Okayama Prefecture's Momochi, Uracchi and Friends

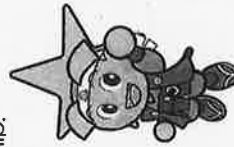
Thank you for your cooperation. Please send us this paper with the Response Envelope.

● What is 'Public Middle School Nighttime Class (Nighttime Middle School)' ?

- It is similar to public middle school that is run during the daytime, but it is carried out at night. Public Middle School Nighttime Class is a learning place for people who did not complete compulsory education for various reasons, people who could not attend most schools due to truancy, and foreigners who have not yet completed compulsory education in this country.
- There are classes every day (excluding Saturday, Sunday and holidays). Tuition is free of charge.
- We offer the same classes (Japanese, Social Studies, Mathematics, Science, Music, PE, etc.) as middle school that is run during the day time.
- Class is led by public middle school instructors who have an instructor's license.
- If you complete all of the courses, you will graduate middle school.

● Public Middle School Nighttime Class (Nighttime Middle School) is interested in the following types of people.

- ① People of 16 years of age or older who have not graduated middle school
 - ② People who have graduated middle school but were unable to receive education on school grounds due to truancy or illness.
- ※Both ① and ② also apply to people of foreign citizenship.



Please circle all responses that apply. There are also questions on the back side.

<Question 1>

(1) Do you feel that you would like to study at Public Middle School Nighttime Class?

- 1 I would like to study there.
- 2 I would not like to study there → Proceed to Question 2

(2) If you answered 「1 I would like to study there」: Please tell us your reason for why you would like to do so.

- 1 Because I have not graduated middle school.
- 2 I have graduated, but I would like to review.
- 3 I am a foreigner and I would like to know about the information and technical skills of middle school.
- 4 Other (Specifically: _____)

(3) For those who answered 「1 I would like to study there」:

- ① Age: Teenager 20s 30s 40s 50s 60s 70 years or more
- ② City/Town/Village of Residency (_____) City • Town • Village

<Question 2>

(1) Is there anybody around you that you would like to inform about Public Middle School Nighttime Class?

- 1 Yes, there are people around me.
- 2 There are people/places (group, workplace etc.) that come to mind.
(Name of Place: _____)
- 3 There is nobody around me → Proceed to question 3

(2) If you have selected 「1 Yes, there are people around me」 or 「2 There are people/places (group, workplace etc.) that come to mind」 for the above question (This question starts at ① and ends at ④):

① Please tell us the reason why you would like to inform that person (or those people)

- 1 Because they have not graduated middle school.
- 2 They have graduated, but I would like for them to review.
- 3 They are foreigners, so I would like for them to study the information and technical skills of middle school.

② Please tell us the relationship with that person (or those people).

- 1 Family • Relatives (Specifically: _____)
- 2 Friends • acquaintances
- 3 Other (Specifically: _____)

<質問2>

③他(他们)的情况。

- (1)年龄： 十几岁(人) 二十几岁(人) 三十几岁(人)
 四十几岁(人) 五十几岁(人) 六十几岁(人)
 七十岁以上(人)

(2)他(他们)居住的市町村

(_____) 市・町・村

④如果您参与他(他们)的支援活动、请告知团体名称等具体信息。

- 1 福祉、教育、社会的弱小群体支援(团体名称等： _____)
- 2 外国人支援(团体名称等： _____)
- 3 其他(团体名称等： _____)
- 4 没有特别参与的团体

<質問3>

你对公立中学课程的期望是什么。(可多项选择○)

- 36 1 为了取得高中的入学资格 2 为了完成中学教育
- 3 想拥有中学程度的学力 4 提高读写能力
- 5 学校生活的体验 6 为了就职・生活
- 7 其他(具体情况： _____)

<質問4>

就本调查想具体咨询或者商谈者、请填写您的名字和电话号码。

名字(_____) 电话号码(_____)

<请任意填写您的其他想法>

感谢您的积极支持和参与!请放入回信专用信封投入邮筒寄出。

公立中学夜间班级 (夜间中学) 需求的问卷调查!

(配合调查者、请连同回信专用信封一起领取)

本问卷针对公立中学夜间班级的需求进行调查、请提出您的宝贵的意见。请按照虚线部分剪开、填写完调查表、然后装入信封后投入邮筒寄出。

本问卷仅用于教育政策的探讨、不会泄露您的信息与隐私、也绝不用于其它目的。

填写联系方式者、有可能接到来自义务教育课的联系。

<详情咨询>

冈山县教育厅 义务教育课 指导班

冈山市北区内山下2-4-6 県庁内

電話：086-226-7584

FAX：086-224-3035

メール：gimu@pref.okayama.lg.jp

电话短信意见、
也在广泛征集中!



● 「公立中学夜间班级（夜间中学）」的定义……

利用晚间时间、在公立中学开展夜间课程。

在公立中学开展的晚间班级、是因为各种理由没能完成义务教育的人、以及不愿上学等理由没能上学的人、另外在本国未能完成义务教育教育的外国籍人员的学习场所。

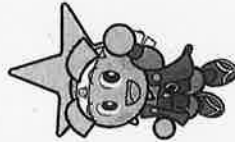
- 每天上课（星期六、星期日、国定假日除外）。学费免费。
- 与一般的中学课表一致、有（国语、社会、数学、理科、音乐、保健体育等）课程。
- 持有教师证的公立中学的教师任教。
- 若修完所有的课程、就能中学毕业。

37

● 公立中学夜间班级（夜间中学）、针对以下人群开课。

- ① 满 16 岁以上、中学未毕业者
- ② 中学毕业者。但由于不愿上学或生病、家庭原因等造成的几乎未能受到中学教育者

※①②两者条件、也适合外国籍人员。



© 冈山县毛毛班

仅结合您的实际情况和真实想法用圆圈圈出答案即可。背面也有提问。

<質問1>

(1) 您想在公立中学夜间课程学习吗。

- 1 想学
- 2 不想学 → 跳至 <質問2>

(2) 「1 想学」的应答者进行具体提问。为什么想学、请告知理由。

- 1 因为中学没有毕业
- 2 虽然中学毕业、但是想重新学习
- 3 想让外国人学习中学的知识和技能
- 4 其它（具体情况：_____）

(3) 「1 想学」的应答者进行具体提问。

- ① 年龄： 十几岁 二十几岁 三十几岁 四十几岁 五十几岁 六十几岁 七十岁以上
- ② 所居住的市町村（_____市・町・村）

<質問2>

(1) 关于公立中学夜间班级的消息、您有想告诉的周围人吗。

- 1 身边有
- 2 有想到的人/场所（团体、职场等）
（具体的场所：_____）
- 3 周围没有 → 跳至 <質問3>

(2) 上述提问中「1 身边有」以及「2 有想到的人/场所（团体、职场等）」的应答者进行具体提问（提问分为①~④）。

① 请说明想要告知他（他们）的理由。

- 1 因为中学没有毕业
- 2 虽然毕业了、但是想重新学习
- 3 想让外国人学习中学的知识和技能

② 请告诉他（他们）与您的关系。

- 1 亲戚・亲属（具体情况：_____）
- 2 朋友・熟人
- 3 其他（具体情况：_____）

转至背面

7008790

岡山市北区内山下2丁目4番6号
岡山県庁西庁舎4階

岡山県教育庁義務教育課指導班 行



料金受取人私郵便
岡山中央局
認
承
6793

差出有効期間
2019年12月
31日まで

令和元年10月31日(木)までに
ポストに投函して下さい(当日消引有効)



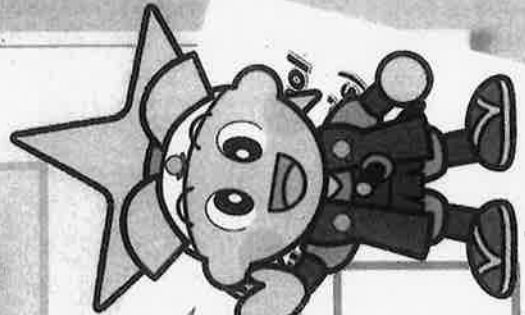
公立中学校夜間学級 (夜間中学)のニーズ調査を 実施しています!

アンケートは英語版・中国語版もあります。外国籍の方にもおすすめしてください。

アンケートと返信用封筒は
図書館・公民館・ハローワーク・市町村教育委員会などに置いてあります。

10月31日までに
返信用封筒に入れて
ポストに投函してください!

お問い合わせ先
岡山県教育庁 義務教育課 指導班
電話:086-226-7584 FAX:086-224-3035
メール: gimu@pref.okayama.lg.jp



© 岡山県ももつちと仲間たち

＜資料4＞既設公立夜間中学 生徒数一覧

規模	生徒数	学校数	中学校名	学校数に対する割合
10人台	11人～19人	5	広島・二葉 広島・観音 神戸・兵庫(北) 大阪・文の里 八王子・第五	15%
20人台	20人～29人	5	神戸・丸山(西野) 京都・洛友 川崎・西中原 松戸・第一(みらい) 市川・大洲	15%
30人台	30人～39人	8	檀原・畝傍 尼崎・成良(琴城) 大阪・天王寺 太田・桜谷 横浜・蒔田 江戸川・小松川第二 葛飾・双葉 荒川・第九	25%
40人台	40人～49人	4	天理・北 豊中・第四 世田谷・三宿 墨田・文花	12%
50人台	50人～59人	1	足立・第四	3%
60人台	60人～69人	4	奈良・春日 大阪・天満 岸和田・岸城 川口・芝西(陽春)	12%
70人台	70人～79人	0		0%
80人台	80人～89人	1	大阪・東生野	3%
90人台	90人～99人	1	東大阪・意岐部	3%
100人台	100人～199人	3	守口・さつき 八尾・八尾 東大阪・布施	9%
200人台	200人	1	堺・殿馬場	3%
全国合計	1,729人	33	9都府県33校	100%

＜参考＞義務教育未修了者197人(11.4%) 入学希望既卒者148人(8.6%) 日本国籍を有しない生徒数：1,384人(80%) 不登校となっている年齢生徒0人

(文部科学省「令和元年度夜間中学等に関する実態調査」より 調査時点：令和2年1月1日)

＜資料5＞県外視察について

①京都市立洛友中学校（京都市教育委員会を含む）

＜設置概要＞

- 所在地 京都府京都市下京区大宮通綾小路下る綾大宮町
51-2
- 設置時期 平成19年4月（旧郁文中を引き継ぎ、新たに開校）
- 設置の経緯 京都市では、洛友中の前身である郁文中に、府内唯一の夜間部（二部学級）を設置し、義務教育未修了者を対象に教育保障を行ってきた。平成19年、下京区の5中学の統廃合により、洛友中学校（昼間部・夜間部併設）を開校する。
- なお、昼間部は不登校特例校である。

＜施設＞

- ・旧郁文中学校校舎

＜生徒の状況＞

- ・夜間部生徒…24名（H31.4.23現在）
夜間部24名のうち、日本国籍10名、外国籍14名
- ・夜間部入学要件
次のすべてにあてはまる人
 - ① 京都市内に住んでいる人
※令和2年度入学生から「京都市内で働いている人」についても志願可能となった。
 - ② 学齢を超えた人（15歳以上）
 - ③ 中学校を卒業していない人、または実質的に十分な教育を受けられずに卒業した人
 - ④ 3年間学校に通える人

＜教職員の状況＞

- ・校長、教頭、教員（常勤講師を含む）9名、養護教員1名、事務職員1名、管理用務員1名、非常勤講師6名、スクールカウンセラー1名、スクールソーシャルワーカー1名、母語支援員1名、総合育成支援員1名、学校司書1名
- ・職員の勤務時間 昼間部の始業から夜間部の終わりまで勤務

＜夜間部教育課程等＞

- ・学年混在の学級編成（性別・母語・年齢・形式卒業等を配慮）
 - 1組：1年生3名・2年生0名・3年生5名 計8名
 - 2組：1年生4名・2年生1名・3年生3名 計8名

- 3組：1年生2名・2年生1名・3年生5名 計8名
- ・指導内容の範囲は小学校1年～中学校3年までの9ヶ年にわたる。国語は、母語・日本語の習熟の程度、数学は、数学の習熟の程度、社会・理科・英語は日本語の習熟の程度に合わせたクラス編成による。
 - ・昼間部・夜間部生徒の交流学習や合同授業の時間を設けている。

②奈良市立春日中学校（奈良市教育委員会を含む）

<設置概要>

- 所在地 奈良県奈良市西木辻町67番地
 設置時期 1978年4月
 設置の経緯 1976年9月近鉄西大寺駅近くの正強学園（現奈良大学附属高校）内を間借りして開校した「私設奈良夜間中学」（通称うどん学校）が1978年4月に公立の夜間学級として認可され春日中学校内に併設された。

<施設>

- ・奈良市立春日中学校内に併設

<生徒の状況>

- ・生徒…生徒数66名（R1年5月1日現在）
 奈良市53名、大和郡山市7名、生駒市3名
 生駒郡2名、北葛城郡1名
 日本11名、中国39名、韓国朝鮮2名、フィリピン5名、
 タイ1名、台湾1名、ネパール7名
- ・入学要件 入学することができる者は、次の号のいずれかに該当する者
 - (1) 奈良市に居住し、かつ、次のア及びイに該当する者
 - ア. 中学校の学齢期を超えている者
 - イ. 中学校を卒業していない者又は入学希望既卒者
 - (2) 奈良市以外の奈良県内（天理市及び橿原市を除く。）に居住し、かつ、前号ア及びイに該当し、特に入学を希望する者で、当該市町村教育委員会教育長の承認のある者

<教職員の状況>

- ・教頭1名、教諭3名、県費講師5名、市費講師1名、
 養護助教諭1名、日本語指導非常勤講師3名、用務員1名
 計15名
- ・職員の勤務時間 午後1時30分から午後9時

<教育課程等>

- ・通常4学級を7つの学習グループに分けて指導。
- ・識字、日本語指導から高校入試まで、生徒の学習能力に応じた指導を実施。特別活動（一泊体験学習、校外学習、奈良県夜間中学生徒総会等）

③ 埼玉県川口市立芝西中学校陽春分校

(埼玉県教育委員会、川口市教育委員会を含む)

<設置概要>

所在地 埼玉県川口市並木1-26-1

設置時期 平成31年4月

設置の経緯 教育機会確保法の設置を受けて、市長が設置の意向を表明した。平成28年度は、県が国の事業を受託し、県内のニーズ調査を行った。平成29年度は、川口市が国の事業を受託し、調査研究を実施した。平成30年度は、教育委員会では設置条例及び学校管理規則を改正。関係12市町村連絡協議会(3回)、川口市及び県教育局による関係者会議(5回)、県内3カ所で入学説明会(8~10月)、市民説明会(5月)を開催した。また、2期に分け入学希望者を受け付け、面接相談を行った。

<施設>

・ 県陽高校の跡地の施設を活用して開校。今後、新校舎完成予定。

<生徒の状況>

・ 生徒…72名 (R1.10.1現在)

川口市内44名、市外28名

日本国籍27名、外国籍45名

・ 入学要件 学齢期を超えている15歳以上で埼玉県内に住んでいる者のうち、

① 小学校や中学校を卒業していない者(義務教育未修了者)

② 中学校を卒業した人で、学び直しを希望する者(主に形式卒業者)

③ 原則、在留資格のある外国籍の者

<教職員の状況>

・ 校長(本校と兼務)、教頭(分校専任)、教員9名、非常勤講師6名、日本語支援員2名、養護教諭1名

・ 職員の勤務時間 午後1時から午後9時30分

<教育課程等>

・ 1年生2クラス、3年生1クラス、授業は少人数または個別で実施

・ 授業時数 弾力的に運営(760時間)

④ 東京都世田谷区立三宿中学校（東京都教育委員会）

<設置概要>

- 所在地 東京都世田谷区太子堂 1-3-43
- 設置時期 1954年（昭和29年）4月
- 設置の経緯 戦後、新制中学校では様々な理由から長期間欠席する生徒が多く、区民からの要望もあり、区教委として夜間に通学できる学級をつくる構想があった。
- 1953年に区内の長欠者を調査したところ、外地からの引揚者が前身の新星中学校区内にあった旧陸軍駒沢練兵所の兵舎に居住している関係もあり、長欠者が最も多かった。また、三軒茶屋駅に近く、渋谷からの交通の便も良いことから、1954年に専任教員4名、生徒15名で夜間学級を開設。5年後には、完全給食も実施。その後、外国籍生徒の入学者の増加から、1974年（昭和49年）日本語学級が認可された。
- 平成16年に新星中学校と池尻中学校が統合して三宿中学校が開校した。

<施設>

- ・世田谷区立三宿中学校内に、夜間学級職員室と夜間教室を設置。

<生徒の状況>

- ・生徒…44名（R2.1.8現在）
通常学級29名、日本語学級15名
【日本9名（義務教育未修了者5名、既卒者4名）中国3名、台湾1名、韓国1名、フィリピン2名、ネパール2名、バングラデシュ1名、コロンビア1名、ベトナム1名、エリトリア1名】
- ・入級資格 ① 学齢を越えていること
② 原則、義務教育を修了していないこと
③ 東京都に在住又は在勤

<教職員の状況>

- ・校長（本校と兼務）、副校長（専任）、教員7名（夜間学級）3名（日本語学級）計11名（加配なし）
- ・職員の勤務時間
13時から21時30分（休憩14時から45分間）
※長期休業期間
10時30分から19時30分（休憩12時から45分間）

<教育課程等>

- ・通常学級3学年各1クラス
- ・日本語学級3学年各1クラス（現在は2年生のみ）
- ・授業時数 弾力的に運営（760時間）